

TAMANO

SPRING 2018



information

[TAMANO] は岡山県玉野市の移住に関する広報紙です。
毎年、季節ごとに特集集中。

たまのの IJU コンシェルジュ うのずくり
(NPO 法人みなと・まちづくり機構たまの)

706-0002 岡山県玉野市築港 1-4-16

Tel | 0863-31-1388

unozukuri@gmail.com

<http://www.unozukuri.com>

Interviewer, Text

五十嵐 由美子

IGARASHI Yumiko

TAMANO 2016 SUMMER にて文章を寄せて頂いた由美子さん。今号では、彼女の視点で切り取ったみなさんの暮らしの様子を文章に頂きました。季節とお野菜を楽しめる日替りおべんとう「遊穂」を玉野市築港に開く。また、身近な好きをあつめた「本と工作 and books」は、瀬戸内をはじめ県内のイベントにときどき出店。2 人のお子さんを育てながら挑戦と模索の日々。福島県出身。

海のそばで暮らすこと

瀬戸内海に沿って位置する玉野市は、少し歩いたり、
ちょっと車を走らせたりするだけで、海をみることが出来る街です。
森林も豊かで自然を間近に感じられます。

こうした風土に身を置きながらどのように生活されているのか、
玉野市にお住まいの五組の方にお話を聞きました。

生活空間のなかに感じられる、日々の暮らし。
この町で暮らす生活の空気や温度、リズムが伝わると嬉しいです。

うのずくり









田中さんは79歳。ならばと1940年からの出来事カレンダーというものを検索してみる。幼少期に戦中戦後と大変な時を過ごしたが、20代前半までにテレビ放送開始、東京タワー完成、ガガーリンは宇宙へ。東京オリンピック開催。そこからディズニーランド開園、東京ドーム完成、働き盛りにはバブル景気と華々しい。この年代の方のアグレッシブさも理解出来る気がする。

長野で生まれ育ち大学を卒業し三井造船に入社。東京での4年を除き玉野市の勤務になる。海洋構造物、船舶建造、ソフト開発などの仕事をした。ほどなくして土地を買い、地元の大工さんに頼んで家を建てた。「それが当たり前だったんだよね。土地もずっと安くて。」玄関から通して頂いた客間まで飾られた各地の土産物。物が多い様子の割にすっきり片付いているが、話を聞いていく内にとっても沢山の趣味があることが分かってくる。習って作った備前焼や奥様のものも含め楽器やお茶、最近気に入っているのは蝶（ジャコウアゲハ）を育てる事。他に登山、畑仕事、NPO活動に参加し狂言もたしなむ。ピアノの上のトロフィーは奥様がテニスの大会で獲得したもの。娘さん家族は今アメリカ暮らし。「孫とはスカイプで話したり、ピアノを聞かせてもらったりね。」と嬉しそう。大きな掃き出し窓からは手入れされた芝や花、ビワや柿、ブルーベリーなど果樹が見える。種類が多くても田中さんの扱いはいつも丁寧に見える。一生懸命働いて家族を持って家を建てる。ほんの少し前まで、そんな当たり前があった。









子供から大人まで習えるピアノ教室「コルリピアノ」を自宅で営む木太さんの家には、沢山小鳥が訪れる。時には亀が迷いこんで来たり。手入れのされた木々が植えられた、程よい広さの庭は生き物たちにも居心地がよいのかもしれない。庭を眺めながら、縁側で旦那さんにご飯を食べる事もしばしば。

結婚を機に鳥取から越して来て1年。ピアノ教室が開ける事を条件に岡山県中をずいぶん見て回ったが、この家には夫婦共々ひとめぼれだったという。築57年の純和風。大家さんは貸出すにあたり荷物を整理し、地元の建築会社にリフォームを依頼した。木枠の窓や柱や床などの木の部分、床の間やらん間などの和室の意匠はそのまま活かし、壁や襖は白で揃え明るくした。建具や畳に生じた歪みや傷みは職人たちの手によって修繕されている。少し古い様なつくりの可愛らしい家具が、始めからあったように馴染んでいる。7DKと広いが過不足なく使えているという。玄関を入ってすぐの二間はつなげて客間に。縁側も繋げれば更に広い。寒い冬は戸を閉めてしまえばよい。物が少な過ぎる事を聞くと「隠している。」というが、どの部屋もすっきりしている。

日々、ピアノ教室を開きつつ、気に入りの本や花を飾って料理や掃除などの家事をこなす。繰り返しの事も、上手く弾けた時、相手が喜んでくれた時、喜びになり生活に心地よさを運ぶ。









アンはほっこり、パンはふんわり。それらは身体を構成する物質としてはあまりに頼りない。宇宙船を弾き飛ばすパンチが打てるのに、あまりにアンバランス。吉田くんの部屋には、キン肉マンの超人やウルトラ怪獣、自作のマッチョな人形に加えて数体のアンパンマンが飾られている。

彫刻家であり、この春から東山ビルのホステル (HYM) のワンルームに住みつつ管理人も務める彼を知るには、このごつい面々の中で異彩を放つ、柔らかいパン人形が鍵となる。休業した宇高国道フェリー乗り場そばにある東山ビルは、1966年に建てられた雑居ビルだ。フェリー運航の盛衰とともにあったが2011年「移住支援の役に立てて」とオーナーからの申し出があり幾多の志のもと、複合ビルとして息を吹き返した。管理人は人と関っては別れてを繰り返す仕事だが「誰かがいる事や色々な国の人達の手伝いが出来るのは嬉しい。」という。まだ先だが、自身での宿の運営も考えている。

大阪出身。実家の他に亡くなった祖父母の空き家がある。宇野で次々と開業する人達をみて、自分にも何か出来るのではないかと思うようになった。拾った木を削って作った人形で自作の劇を演じる。身体を鍛えることによって心が清まると信じている。「良い場所ほど離れたくなる。」という。見た目はレスラーの様なのに優しさがにじみ出て、会う人々をにこにこさせてしまう吉田くんは、現状には甘んじない。変わらない少年の心を持ち続けるために。





NCLの
巡回販売見本
B





小さな山のとっぺん近くに望月さん夫妻のお宅がある。雑木林に囲まれた細い山道は階段なので、車やバイクが入っていくことが出来ず、徒歩で一步步上がっていく事になる。夫の孝太郎さんが「勝手に購入した(妻談。苦笑)」という古い平家は、壁や屋根を付け直し住めるようにした。そこからは少しづつ漆喰を塗ったり柵を付けたり。

築港商店街で「やさい屋ポッケ」という店を営んで3年。そこでは地元の生産者から仕入れた野菜や加工品、お店の野菜や果物をたっぷり使ったスムージー、冬はスープ、妻の弘美さんの自家製スイーツなどを販売している。営業は週2日。加えてイベントに出店をしたりすることもあるが、自らも野菜を作り、時には加工し、営業日に合わせて仕入れにも回る。野菜の配達やインターネットでの販売も行うので「生活そのものが仕事。」となる。仕事の様子から、自然第一のストイックな暮らしをしていると思われるがちだが、便利も大切に。実際はもっと気楽に「好きだから。美味しいから。楽しいから。」という理由で手仕事や手作りを選択している。

山の家には海を広く望める窓があり、そこにはテラスを付けた。
最高の眺めのためならば一步一步、手間をかける事は惜しまない。









7月にあった豪雨での土砂崩れを気にしながら車を走らせ、海岸沿いをしばらく行く。小さな船が泊まる、ゆったりとした海の目の前に副田さんの「soefarm」の工房はある。5年前、玉野市で畑を探す中、人づたいに紹介してもらった平屋の昭和建築。近所の方と孫くらい年が離れているが、仲が良い。故郷の高知に比べ、瀬戸内の人にはふんわりしていると思った。

農家のようにでもあり、料理家のようにでもあるが「本業は養蜂家」と語る。養蜂を極めたいと、1年前4匹の猫と共に、生活の基盤を香川県の豊島に移した。日本みつばちを捕え巣箱で飼い、蜂蜜や蜜蠟を採取する。蜂に余り負担をかけない、むしろプラスになる採蜜の時期を探り、より美味しく質の高いものを目指す。それには経験を活かしつつ、自然の変化を見極める事が重要となるが「毎年違うんだよねー。」と難しいらしい。季節ごとの蜂蜜を販売している。そのまま玉野に残した工房に月に数回、果物や野菜を抱え豊島から通う。島暮らしは楽しいが、息も抜きつつ、仕事の面でも都合が良いので、試している途中だ。

自分で育てたり、好きな生産者たちが目の当たりに収穫した野菜や果物をジャムなどに加工する。色々加えた「自分らしい味」よりは、素材そのもののフレッシュさを大事にしている。観光が盛んな豊島だが、土産物というよりは日常のものとして扱って欲しいと思っている。人とのつながりで出来た卸先が日本各地にある。出会って訪ね、ここに置きたいと思った場所ばかりだ。

Resident

今回、お家の取材・撮影をご協力いただいた、
玉野市に住居・工房を構えるみなさんをご紹介します。

P2-7



田中 宣史

TANAKA Nobuhito

NPO 法人みなと・まちづくり機構たまのメンバー。気さくだけど、どこか飄々とした面がある。三井造船を退職後は、畑や蝶など生き物に熱心な様子。長野県出身。



庭で飛んでいた蝶
なぜか田中さんに寄ってくる

P8-13



木太 久美子

KITA Kumiko

子どもからお年寄りまでやさしく教えてくれるピアノの先生。温かく見守る眼差しにまわりの空気も柔らかくなる。最近は料理に興味津々。鳥取県出身。



ことりのオブジェが飾られる机
鳥好きは無自覚な様子

P14-19



吉田くん

YOSHIDA-Kun

体を動かすこと、鍛えることが大好きな青年。そのせいか、いつも艶々キラキラしている。制作した木彫の人形は友達であり、劇の役者として接している。大阪府出身。



1本の丸太からコソコソと
削りだされた筋肉質の人形

P20-25



望月夫妻

MOCHIZUKI and his wife

季節の美味しいもの・素敵なのがぎゅっと並ぶ「やさい屋ポッケ」は、畑もしつづイベントも開いちやう八百屋さん。発見も多いアジアの旅は楽しみのひとつ。埼玉県出身。



生き生きと旬の野菜が育つ
やさい屋ポッケの畑

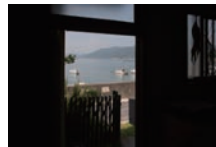
P26-31



副田 祥子

SOEDA Shoko

奈良の吉野から5年前に玉野市へ。現在は瀬戸内を行き来しながらライフスタイルを興し中。一緒に豊島へ引越した4匹の猫たちも自由気ままな様子。高知県出身。豊島在住。玉野市に「soefarm」の加工場を持つ。



玄関をあけたら海
台風ときは高台に避難



2019年3月発行

発行：たまの IJU コンシェルジュ うのずくり

協力：NPO 法人みなと・まちづくり機構たまの

(C)2019 TAMANO CITY, UNOZUKURI

